

うつらわ

第97号
平成29年3月24日
浦和小学校PTA
文化広報委員会

「一年を振り返って」

PTA会長 山田 俊介



会長が務まるのかと不安に思いながらの一年間。会長を務めることが出来たのも、力強くサポートしてくださった副会長はじめPTAの皆様のご協力によるものです。本当にありがとうございます。また校長先生はじめ先生方には会長として至らないところや、ご迷惑をおかけした点多々あったと思いますが、先生方のご指導、ご協力によりPTA活動を無事に終えることができたことに心よりお礼申し上げます。私にとってこの一年は色々な経験をさせていただき、貴重で意味ある年となりました。平成三十年三月に閉校を迎えるための準備を中心に活動させていただきましたが、一番に感じたことは保護者の皆様には積極的に学校と関わって欲しいということです。私もこれからは一保護者としてPTA活動はもちろんのこと、家庭教育やボランティアなどを通して学校と関わってみたいと思います。

もう一つ、私たちの子供が色々な場面で地域の方々に大変お世話になっていることを知っていたのだと思います。子供は親だけが育てるのではなく、家庭・学校・地域が協力し合うことが大切であること。そしてこの連帯があつてはじめてより良い教育が可能になると再確認させられたことが沢山ありました。お世話になっている地域の方々には保護者の一人として感謝申し上げます。来年度も役員の皆様を中心に子供たちのためのPTA活動が充実できますよう、またすばらしい閉校を迎えられるようご祈念申し上げます。ありがとうございます。

「浦和小とからいも作り」

校長 那須 さとみ



浦和小の玄関を入っていただくと、スクールサポーターの方々のたくさん笑顔の写真が並んでいます。そして、その中に、「いも料理に挑戦」と題したコーナーがあります。わたしにとって、栽培活動の充実、赴任した時から託された課題のバトンでした。米作りは伝統に支えられたしつかりしたものがありました。他の栽培については場所や取組方法等の課題があつたのです。何もできなかった一年目の反省を基に、二年目は、球磨の実家から十五本の種芋を持ってきて理科園の横に植え、つるをとりました。担任の先生方にもお願いし、春の花が咲いた後の学級園は、全て芋畑と変身を遂げ、子どもたちと成長を競うかのように青々とした葉を繁らせました。暑い夏の陽射しも雨も風ものりきつた逞しい芋は、地面の中でしっかりと成長し、収穫祭を迎えることとなりました。去年は職員が焼いた焼き芋も、今年は家のおばちゃんや地域の方、上津浦婦人会の皆様の御協力で、芋団子やがねあげ、芋御飯へと大変身を遂げることができました。球磨と天草を結び、子どもが植え、教師と育て、地域の方の協力を得ての収穫祭…これこそが、わたしがやりたかった浦和小のからいも作りでした。最後になりますが、この一年間、いつも学校応援団でいてくださった山田PTA会長様はじめ、保護者・地域の皆様方の温かな御理解と力強い御支援に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

卒業おめでとう



「一歩」 これからの道のりを 一歩一歩 あゆんでいこう

松田 慶大 「プロサッカー選手」
テクニクやチームワークで会場を盛り上げる選手になりたいです。そのために、日々の練習や決められたことを守ることを続けていきたいです。

坂上 翔哉 「消防士」
いつも笑顔でいつでもサポートできる消防士になりたいです。そのために、体力をつけることを頑張ります。

柴田 碧心 「薬剤師」
病気やケガで苦しんでいる人を笑顔で支えられるような薬剤師になりたいです。そのために毎日勉強を頑張し、笑顔で過ごすことを大切にします。

尾崎 愛 「パン職人」
来てくれた人がおいしいと言って笑顔になるようなパン職人になりたいです。そのために、料理の練習を頑張ります。

井上 清 「警察官」
優しく、みんなの命を守るような警察官になりたいです。そのために、人に親切にすることを大切にしていきたいです。

森田 華恋 「美容師」
明るい気持ちで接してみんなを笑顔にできるような美容師になりたいです。そのために、日頃から笑顔で過ごすことを大切にしていきたいです。

後藤 優里 「保育士」
いつも笑顔で優しく接し、みんなが明るくなるような保育士になりたいです。そのために人を大切に、明るく笑顔で過ごしていきたいです。

黒木 海飛 「プロサッカー選手」
礼儀正しくて、活躍できるようなプロサッカー選手になりたいです。そのために、努力をおします練習し、あいさつや返事を頑張ります。

山田 亜美 「保育士」
いつも元気いっぱい、人に優しくできるような保育士になりたいです。そのために、人の気持ちを考えて行動することを頑張ります。

山田 愛華 「保育士」
いつも笑顔で、みんなを楽しみたい気持ちにさせる心優しい保育士になりたいです。そのために、周りの人に優しく接していくことを大切にします。

徳井 舞世 「助産師」
いつも笑顔で優しい心を持った助産師になりたいです。そのために、人のことを考えて行動することを大切にしていきたいです。

松崎 光太郎 「警察官」
笑顔と思いやりで、人々を笑顔にできるような警察官になりたいです。そのために、人に優しく接していくことを続けていきます。

井手尾 七海 「ダンサー」
見る人を楽しませ、笑顔にできるようなダンサーになりたいです。そのために、体力をつけ、毎日笑顔でいることを頑張ります。

寺澤 忍 「プロサッカー選手」
みんなに頼られるようなサッカー選手になりたいです。そのために、宿題などをきちんとし、練習も休まず頑張ります。

小谷 真凜 「画家」
見る人が笑顔になって、みんなに平等に接することのできる画家になりたいです。そのために、人に積極的に話しかけることを頑張ります。

山下 結斗 「消防士」
周りをよく見て人を守ることができ消防士になりたいです。そのために自分のことだけでなく、周りのことをよく見て声をかけることを頑張ります。

「二十人の卒業生へ」

六年生担任 森 常法

六年生のみなさん、一学期の始業式の日には約束したことを覚えていますか。それは、「このクラスを学校で一番笑うクラスにする」ということでした。その日からみんなは、私にたくさん笑顔を見せてくれました。私は担任としてみんなを笑わせようと毎日考えていました。どんな言葉をかけたら、笑顔になってくれるだろうか。どんな授業をしたら笑顔で理解してくれるだろうか。でも、あなたたちの方が、私をいつも笑顔にしてくれたことに気づきました。将来の夢をみんなでも考えたとき、こんな話をしましたね。「私は学校の先生をしていてとても楽しい。私を見ていてと楽しそうじゃない？」と尋ねると、「楽しそうです」と答えてくれました。私は六年生みんなと、たった一年間しか一緒に過ごしませんでしたが、何年分も笑ったように感じています。私自身、たくさん笑顔になれて楽しかったし、あなたたち一人一人の笑顔を見たくて、毎日学校に通っていました。

いよいよ卒業ですね。これからの人生いろんなことがあります。そんな時は、ちよつとした「ユーモア」と「アイデア」を持って、笑顔で歩んで行つてください。友だちと、家族と、これから出会う先生方と、笑顔で過ごせることを願っています。今までありがとうございます。

「六年間を振り返って」

六年学年委員 松田志津佳

小さな体で大きなランドセルを背負い、登校する姿が、つい最近の事のように感じます。光陰矢の如しと言いますが、本当にあつという間の六年間でした。無事に卒業の日を迎えることができ嬉しくもありますが寂しくもあります。子どもたちはこの六年間で心も体も大きく成長しました。特に「こころ」は最上級生として様々な場面で活躍する姿を見て親としては大変誇らしく思いました。これからも共に助け合い、励まし合ってきた仲間を大切に、絆を深めてくれると思います。

最後になりますが、子どもたちが充実した学校生活を送ることができたのも、いつも温かく見守りご指導下さった先生方、保護者の皆様のおかげです。本当にありがとうございます。